



ゆめ半島
千葉国体
2010

国体の記憶 ⑩

このコーナーに登場してくれる人を募集します。
くわしくは広報課（☎20・1503）へ。

“尽きることはない”自転車熱

選手の発掘・強化から競技環境の整備、こまごまとした手配。選手としてではなく、監督・競技役員として6年前から国体の舞台に立つ。

「不慣れなこともあります、とにかくやりがいを感じています。好きな自転車に関われる場を与えてくれる皆さんに感謝しています」

元々は競泳選手。「地元の川で泳いでいただけのまったくの我流」というが、身長180cmという恵まれた体格を生かし、実業団では東京都代表の一人として活躍した。

自転車競技を本格的に始めたのは40代も迫ったところ。「何で皆あんなに楽しそうな顔をするんだろう」。宮古島トライアスロンの放送を見て、実業団引退後、忘れかけていたスポーツ熱に一気に火がついた。

トライアスロンの中でも特に惹かれたのが自転車だった。「風を切る」爽快感がたまりません。ロードでは時速35kmほど出るんですが、まさに景色が流れるんです」。週末のたびに、トレーニングのため自転車で筑波山へ。大会にも数多く出場し、そこでさまざま



昨年の大分国体で選手たちと
(左端が夏目さん)

まな人との交流を重ねた。技術や経験、知識を得て、指導員や審判の資格も取得。県自転車競技連盟からは監督や競技役員を任されるようになった。

監督としてもつとも記憶に残る大会は、昨年の大分国体だ。開催日に台風が直撃。だが、自転車競技は雪と雷以外では中止にならない。

「暴風雨の中、傾斜角35度以上のバンクを走るんですから、レースは困難を極めました。チームが真に一つにならなければ完走はできなかったと思います」

還暦を超えた今、目標は「墓場に入るまで自転車を続けること」。週2日以上こなすトレーニングでは、1回1500キロカロリーを消費し、タフネスぶりを発揮する。来年の千葉国体では、自転車競技の「総務担当」。今年の新潟国体から実務に携わり、経験を積みつもりだ。

編集後記

「広報なりた」7月1日号から、ほんの少し紙面をリニューアルしてみました。分かりましたか？1日号最終ページのカレンダーのデザインを変えてみました。また、「伝言板」や「福祉と健康」のページなどもリニューアルしてみましたがいかがでしょうか？これからも見やすく、分かりやすい紙面作りに励んでいきますので、ご期待ください。



成田市役所本庁舎
(行政棟、議会棟、消防本部、成田消防署)
はISO14001の認証
登録を受けています。

平成21年7月15日号 No.1151

成田市のホームページ <http://www.city.narita.chiba.jp>